

1. 科目名 (単位数)	音楽実践演習 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP1145						
2. 授業担当教員	高木 麻衣子								
4. 授業形態	演習、講義、実技	5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・他科目との関係	「音楽」を終了していることが望ましい。								
7. 講義概要	「音楽」で学んだ基本的な音楽理論(楽典、和声法)、鍵盤楽器の基本的奏法を駆使して、より実践力を高めるための演習を行う。「音楽」では、演奏するために必要な知識や技術を実践を通して学ぶが、「音楽実践演習」ではさらに発展的に様々な曲を学ぶことで技術を確かなものにする。また、たとえ鍵盤楽器の経験があっても、子どもの歌を弾き歌いするなど保育実践に必要な演奏力の育成のために全学生が履修する必要がある。読譜力を養うと同時に歌を歌うための発声法を学ぶ。「音楽Ⅱ」で学ぶリズム活動など保育現場での音楽活動に関わる演奏に発展する、保育実践に焦点を当てた演奏力を身につける。								
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 音楽理論を理解し読譜ができる。</li> <li>2. 弾き歌いをするための演奏力を身につける。</li> <li>3. 歌うための発声を習得し、歌うことができる。</li> <li>4. 主にリズム活動に関わっていくマーチなどの演奏ができる。</li> </ol>								
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ピアノ実技：毎回レベル毎に課題曲を提示するので、次回対面までに弾けるように練習をしてこよう。</li> <li>② 音楽理論：ほぼ毎回単元別の練習問題を提示するので、疑問点や質問事項は必ず聞くこと。</li> <li>③ 中間のまとめ、期末のまとめを行う。</li> <li>④ 歌唱教材：1曲でも多くのレパートリーを持てるよう、「歌うこと」に積極的な姿勢で臨むこと。</li> </ol>								
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 「音楽」と同じ教科書を継続して使用する。</p> <p>【参考書】川辺 真著『わかりやすい楽典』音楽之友社</p> <p>【教材】五線ノート等、必要な時に配布・添付します。 ※各自で必ず購入しておくこと。 ・ヘッドフォン ・6.3mmステレオジャック(先端が3.5mmジャックの場合、ステレオ変換ジャックが必要)</p>								
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 音楽理論を理解し読譜ができるか。</li> <li>2. 弾き歌いをするための演奏力を身につけたか。</li> <li>3. 歌うための発声を習得し、歌うことができるか。</li> <li>4. 主にリズム活動に関わっていくマーチなどの演奏ができるか。1</li> </ol> <p>○評定の方法 以下の点を総合して評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 ピアノ伴奏による弾き歌いの発表</td> <td>総合点の50%</td> </tr> <tr> <td>2 基本的な音楽理論の筆記テストまたはそれにかわるレポートなど</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>3 授業への取り組み(学習意欲・学習態度など)</td> <td>総合点の20%</td> </tr> </table> <p>上記のほか、本学規定に定められている3/4以上の出席を単位認定の条件としている。</p>			1 ピアノ伴奏による弾き歌いの発表	総合点の50%	2 基本的な音楽理論の筆記テストまたはそれにかわるレポートなど	総合点の30%	3 授業への取り組み(学習意欲・学習態度など)	総合点の20%
1 ピアノ伴奏による弾き歌いの発表	総合点の50%								
2 基本的な音楽理論の筆記テストまたはそれにかわるレポートなど	総合点の30%								
3 授業への取り組み(学習意欲・学習態度など)	総合点の20%								
12. 受講生へのメッセージ	<p>オンライン授業が想定されますが、キーボードの練習方法について(紙鍵盤を含む)鍵盤ハーモニカ・ピアノその他が映えるように工夫してあればアドバイス可能です。「ピアノが弾けるようになる」ことは技術の習得です。したがって、日々の鍛錬を忘れずに積み重ね、努力すると必ず弾けるようになります。自分を信じて取り組み、出来る喜びを分かち合ひましょう。保育・教育に携わる皆さんが音楽の楽しさ、素晴らしさを次世代に伝えていける伝達者になって欲しいと思っています。熱心に取り組まれることを期待しています！弾き歌いでは、個々の技量にあった、より多くの曲に触れてほしいと思います。</p>								
13. オフィスアワー	最初の授業時に提示								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第1回	授業ガイダンス(シラバス説明・授業概要)、アンケート、演奏レベルチェック、課題曲提示	事前学習	音楽(幼)の最終授業で発表した曲を弾けるようにしておく。						
		事後学習	各自の目標(初中級：できるだけ多くの曲に触れることを目指して、上級：実践力のある演奏を目指して)を設定し、各自の演奏レベルに応じて提示された課題曲を練習する。						
第2回	ピアノレッスン 音楽応用理論①(メジャーコード、マイナーコード)	事前学習	各自の目標及び各自の演奏レベルに応じて提示された課題曲を練習する。						
		事後学習	音楽理論の応用、自身の読譜力向上に留意しながら各自の課題曲を練習する。 音楽理論プリント課題(メジャーコード、マイナーコード)に取り組む。						
第3回	ピアノレッスン 音楽応用理論②(その他のコード、転回形)	事前学習	各自の目標及び各自の演奏レベルに応じて提示された課題曲を練習する。						
		事後学習	音楽理論の応用、自身の読譜力向上に留意しながら各自の課題曲を練習する。 音楽理論プリント課題(その他のコード、転						

			回形)に取り組む。
第4回	ピアノレッスン 音楽応用理論③ (コードで弾く歌)	事前学習	各自の目標及び各自の演奏レベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	音楽理論の応用、自身の読譜力向上に留意しながら各自の課題曲を練習する。 音楽理論プリント課題 (コードで弾く歌) に取り組む。
第5回	ピアノレッスン 音楽応用理論④ (リズムカードの創作)	事前学習	各自の目標及び各自の演奏レベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	音楽理論の応用、自身の読譜力向上に留意しながら各自の課題曲を練習する。 音楽理論課題 (リズムカードの創作) を出来るようにする。
第6回	ピアノレッスン 音楽応用理論⑤ (リズムカードのグループワーク)	事前学習	各自の目標及び各自の演奏レベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	音楽理論の応用、自身の読譜力向上に留意しながら各自の課題曲を練習する。 音楽理論課題 (リズムカードのグループワーク) を出来るようにする。
第7回	ピアノレッスン 音楽応用理論⑥ (リズムを使った音遊び)	事前学習	各自の目標及び各自の演奏レベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	中間のまとめに向け、各自復習をする。
第8回	中間のまとめ (音楽理論に関する筆記試験)	事前学習	中間のまとめに向け、各自復習をする。
		事後学習	各自、期末試験に向けての目標を設定し、それに応じて決めた各自の課題曲を練習する。
第9回	ピアノレッスン 歌 (発声法・歌に親しむために)	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	音楽理論の応用、自身の読譜力向上に留意しながら各自の課題曲を練習する。
第10回	ピアノレッスン 歌 (保育に必要な歌・輪唱)	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	音楽理論の応用、自身の読譜力向上に留意しながら各自の課題曲を練習する。
第11回	ピアノレッスン アンサンブルの楽しみⅠ (簡易楽器による合奏 グループ・曲決め 楽器決め)	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	音楽理論の応用、自身の読譜力向上に留意しながら各自の課題曲を練習する。
第12回	ピアノレッスン アンサンブルの楽しみⅡ (簡易楽器による合奏 グループ練習)	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	音楽理論の応用、自身の読譜力向上に留意しながら各自の課題曲を練習する。
第13回	ピアノレッスン アンサンブルの楽しみⅢ (簡易楽器による合奏 グループ発表)	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	音楽理論の応用、自身の読譜力向上に留意しながら各自の課題曲を練習する。
第14回	ピアノレッスン 演奏聴取時の感受性についてのトレーニング	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	期末のまとめに向けた課題曲を練習する。これまでに学習した音楽理論について復習をする。
第15回	期末のまとめ	事前学習	期末のまとめに向けた課題曲を練習する。これまでに学習した音楽理論について復習をする。
		事後学習	実技の復習、これまでに学習した音楽理論について復習をする。